労働は義務と名誉

中央評議會の幹部と懇談會

宮川組合長 欧亜旅行記（36）

再びソ同盟の中央評議会の幹部との懇談会を持つた。この日は議長のシベルスク氏を始め、幹部が全部揃つていた。

まず最初に日本の労働事情がソ同盟の方にどのように伝わつているかは別として、われわれ総評の代表者として正しい日本の労働事情を一応説明しておく必要があると考えられ、塩谷氏より組織状況（総評、全労、中立系など）を中心にした問題点や、さらに過去に行つてきたいろいろな争議など、日本の労働者のおかれている立場こういうものを中心に約一時間にわたつて説明を行つた。引続き議長の方から次のような挨拶と報告がなされた。丁度この日は革命三十七周年記念の前日であり、そういう意味をも含めての報告であつた。

社会主義国家であるということは相当な経験を持ち、共産主義に入ろうとしているソ同盟は、現在のところはソ同盟視察団に大きな問題点があるだろう、皆様に指摘を願いたい。総べての政治は市町村の勤労者の手で行われている。経済的基礎は社会主義である生産手段は人民の手によつて行われ、いかなる搾取も排除されている。これは資本主義を廃止して充実されているものである。ソ同盟における労働は能力に応じた義務と名誉である。社会主義の原則は確立されている。能力に応じて働き必要なものを受ける権利働く権利がある。これらの保障を受ける権利は量と質によつて与えられる、労働の権利は社会主義によつて保障されている。ソ同盟内における組合の任務は従つて資本主義の国とは原則的に異つている。農民と団結して国の主人公である労働者、農民、知識人はつきのために働いている資本主義国家では資本家のために働いている。ソ同盟の組合は原則的に課題が違つている。資本主義国家においては賃上げ、くび切りとたゝかうと同時に国家権力に対しても闘いを行つている。しかしソ同盟では労働能力の向上のため日夜闘つている。労働能力が高ければ人民の生活水準が高くなるからである。この闘いは決して矛盾しない。外国代表団からよく質問されることであるがソ同盟では強制的な労働があるのではないかと。これらの質問は社会主義国の何ものかもわきまえない反動者の質問であると考える。政治的知識の低い馬鹿げた質問である。われわれは資本家と地主を追払つて工場と土地を労働者と農民の手に移した。これを逆に資本家の手に返したらとんでもない問題になる。資本主義国家では必ず労働強化が起る。これは資本家のためである。しかし社会主義の国では人民のために能力を上げるのは当然で、これを悪くいうのは悪宣伝家だけだ。労働者は賃上げだけでなく実質的な生産内容を持つている。賃金のほかに大幅な社会施設や医療施設社会保障、ピオニール、サナトリウムなどがある。資本主義の下ではこのような福祉は想像できない。社会保障があつても労働者負担が勿論ある。労働組合は政党に対し無所属で、人種、性別、信条の自由を保障されている。主な任務と課題は社会主義の設立と国を強化するにある共産主義の設立と国を強化するにある共産主義育成を行つて労働者の文化、技術を上げるために闘つている。その他全世界の団結と平和のために闘つているレーニンは（ソ同盟の組合は組織的に教育的組織であり経済的活動は共産主義訓練所である）このように述べている。（この回は次号まで続きます。写真は勤労者住宅にて、後にあるはテレビ）

労基法改悪のネライ

改正の美名で惑わす

儲けをタクラム資本家

総評ならびに炭労は政府や資本家がタクランでいる労働基準法改悪を粉砕する闘いをそれぞれ決定した。現在の苦しい闘いにこの労基法改悪がなればわれわれの生活権や労働条件は一層悪化していくのは必至である。こういう時期に当つて学識経験者の座談会を「経済旬報」より集録してみた。

＝座談會＝
明大教授　松岡三郎氏
辯護士　内藤功氏
〃　大野正男氏
教育大講師　松尾均氏

基準法ストップ政策

松岡　第一点として、この改正問題は政治的に利用されているということです。非常に宣伝的な色彩が強い。従来は労働法の改正などの場合には秘密主義であつたのに、今度の場合その点が宣伝的におこなわれていますが、そうすることによつて事実上基準法の施行を一時ストツプさせるというねらいをもつているのではないかと思います。「改正」をさかんに宣伝することによつて、その間一時現行基準法の実施をストツプさせるのではないか。たとえば基準監督官が各会社工場等へ巡つていつた場合、経営者側ではかならず「もうすぐ基準法が改正になるのだから、そんなに監督する必要はないではないか」というであろうし、どうもそういう口実を与えることになるのではないかと思われるのです。

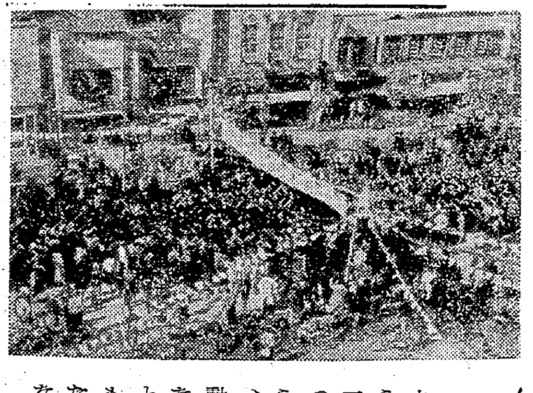
生産性運動の地均し

第二点は、鳩山政権は労働者にホウビをあたえることによつてオダテておいて、実際は生産性向上運動に協力させたいと考えていることは明らかですが、その一つの地盤として基準法「改正」を考えているのではないか。現在労働組合は特例はあるにせよ！生産性向上運動には協力しないという態度を執つているのですが、基準法「改正」によつて、その地盤を崩そうとする意図があるように思われる第三点としては基準法改正をキツカケとして就業規則によつて、その企業における労働者を握つてしまおうという動きが非常に強いことです。この動きはとくに国鉄あたりの基準法改正に対する意見書の中などにロコツにあらわれているように思います。

近江絹糸の問題にしても

内藤　こんど政府が基準法改正の理由として挙げている一番大きな点は基準法が実情として、とくに中小企業においては守られていないということにあるようですがしかしさらにその奥に意図していることは、そういうことを表面上の口実として、その実は生産性向上という名の下に労働者全体として一層きびしい条件の下に働らかせ、資本家にとつてより多くの利潤を確保させることにあるのだと思います。

大野　こんどの基準法改正問題を遵法精神の角度から少しながめてみたいのですが、基準法が守られていない。守れば企業がつぶれるという宣伝には人から奪おうとするような傾向にあり、また事実そういう結果を招いているのではないかと感ぜられるのです。去年あれだけ大問題になつた近江けん糸問題にしてもかなり悪質な基準法違反事実があげられているにもかゝわらず、基準法罰則適用の面からいえば、社長が略式命令を受けたに過ぎなかつたのです。いわんや、その他の基準法違反などは実際にはほとんど罰則も適用されていないのではないかと思われるのです。（つづく）



スポーツ愛好

九州一周駅伝競走は狂気のような沿道の応援をうけて行われている。大牟田市役所前中継所も二十二日のちようど昼休みで黒山の人だかりだつた。大牟田のスポーツ熱もさすがと嬉しいような気持になり悦に入つているむきもあつたが、路上のニツチもサツチもならぬ混雑ぶりは自動車、自転車はおろか、当の選手君たちも通れない有様ースポーツを愛する割には見物、応援とも全くゼロだつた。恒例の大地評、三鉱駅伝も来春には華々しく行われるだろうが、組織人たるわれわれはこんなブザマな光景は見せたくないものだ。

逃げ口上のオ偉方

署名簿持ち國會陳情

米の統制撤廃反対、米価値上反対、農業改革の政策樹立のもとに全食糧労組を中心とした闘いは活発に行われ街頭にも進出、反対署名の運動も展開されたが去る十月二十九日この署名簿とともに抗議文を携え国会陳情が行われたが、福炭婦協からも三池の秋芳主婦会長が代表として参加した、以下は本紙に寄せられた報告文である。

去る十月十四日全食糧福岡支部、炭労、炭婦協、総評、農民総同盟、母親の会、自治労の各代表が福岡市農民会館で集合し米の統制撤廃反対福岡県協議会を結成、当面の闘争方針今後の運動について協議し具体的な活動として十八日から街頭運動等を開始しました。

その一環として福炭婦協の第四回評議員会の決定で県の陳情団の一人として私が上京致しました。他に母の会、炭労、全食糧労組より代表の方が上京されました。

三池の皆様に、御協力願いました署名簿も、約一万五千名の多数にのぼり紙上を借りまして御礼申し上げます。

十月二十九日出発、三十一日午前十時食糧庁本部に集合宮崎、熊本茨城、四国の各代表約二十名が清井食糧長官に面会し米価値上反対米の統制撤廃反対農業改革の政策確立せよの抗議文を手交すると共に各代表より抗議要請が行われた昭和二十八年凶作の時のまゝの配給量が、そのまゝになされているが今年は豊作なのでこの期に前の配給量にもどしてもらいたい、又米の統制撤廃についての御考えはどうかの質問に豊作だからといつて、撤廃は考えていない、又検討した事もない、本年は農家の供出制度を廃止し自由供出にしたため従来の集荷二三五〇万石を四三〇〇石以上上まわつており、この分を希望配給にしたので皆さんにはわずか十二円なので喜こんで頂けると思つていた、との答えで希望配給でなくこの分を増配とし現在の額より一円の値上げもして頂きたくない、わずか十二円でも私達の生活には痛手であるし、配給米でさえ満足に取れない現在の炭坑の生活は苦しい事を説明した。

百二十円という額はトントンで、損もせねばもうけもしない額で今まで一石二千円の赤字を出し業務用米と外米のマージンでうめてきたしかし一般会計からもうめねばならないところまで来ている事を話された。

私達としては全国民の反対する防衛費を削減すればうめられるはずである、再軍備のしわよせを主食にしてもらいたくないということを、大蔵省に力説してもらいたいと要望したがこのような問題は大臣の仕事であるととぼけていた。

また農井事務次官と面接の予定であつたが重要会議といつて姿を現わさず、二時間近く待たせて出てこないので皆におしかけたが、五時まで待つて頂くと五分位ならとの人を馬鹿にした迷事に憤がいし食糧労組よりキツ問して頂くようにハツパをかけ第一日を終る。

翌日は連絡不充分でミスの多いたずらに時間をかけるので阿具根山本、多賀谷の各衆参議員を通じ大蔵大臣に面会する手続をとつたが、大蔵省に十一時半到着、大臣は保守合同の立役者としていそがしく不在、行先不明とのことで、事務次官平田氏に面接、陳情文抗議文を提出し、昨日と同じような陳情と抗議を行つたがここでも百億の赤字の苦しさと、希望配給の価額差は十二円でもあるしその為ヤミ価が下つたのでがまんしてくれとのことだつた。

しかし私達としては希望配給という方法は来年度の値上げと統制撤廃の前提と思うがどうかをとい正したが次官としても値上げとか撤廃などは絶対考えていないと言明していた。

労働者の生活実態を説明し希望配給は私達にはちつとも有難くないあくまでも増配をと主張したが今のところはこの配給量でがまんして頂きたい、農林省も大蔵省も撤廃も値上げも考えていないと唯にげるのみであつた。

目方にして五十キロの署名簿を地区ごとに整理し、山本参議の事務室まで届け阿具根さん達の手で開院と同時に各大臣に届けて頂くよう依頼し、また他に農林大臣河野衆院議長益谷、参議院議長河井、衆院農林委員長綱島、参院農林委員長江田の各氏に抗議文、陳情文を提出して三日の日程を終り帰郷しましたが希望配給を増配にとの運動はすでに時期遅れの感がしましたが、統制撤廃反対を目標に、全国的なつながりを持つて行くことを各代表と誓いあい散会した。

今後もこの運動は続けられることでもあるし、福岡県としても国会開催中を中心として最後の圧力をかけるわけであります。

あくまでも現在の希望配給を増配にせよということと来年統制撤廃及び値上げは必至であり撤廃反対に重点をおいて県総評としても年末闘争の中で米の問題も共に取り上げて闘う事を表明、今後の国会陳情団は県庁を中心としたところの県議を含めた編成をし、県出身の選出代議士に事前に協力方を要請し行動を起すことを決定致しております。

私達は台所を守る為最後まで全力をあげて闘い、私共の要求を貫徹するまでがんばらねばなりません

御苦労サマ

主婦、園児の坑慰問

十一月二十三日の勤労感謝の日を記念して宮浦、三川、四山の各ヤマの坑口では日頃のおつとめ御苦労様と坑口慰問が行われた。

三川では外来主婦も含めた初の慰問が行われ、煙草やアメが昇坑してくる人たちに贈られ御苦労様の声に労働に疲れたのも吹き飛んだように思わぬ慰問に少々テレ気味ながら嬉しそうに顔がニツコリ。宮浦でも同じように主婦会からたばこ慰問が行われ、四山では四山社宅、宮内社宅の園児たち四百名が手に手に小旗を打振りながら可愛い声で御苦労さんとそれぞれ慰問、この日は各ヤマとも和やかな気分にあふれていた。

仲良く足並揃う

明治校區で（日本母親大会）報告開く

明治校区では日本母親大会に出席された五島前主婦会長および教組の三先生（平野、日巻、板垣）を招き、明治校区婦人会、三鉱明治校区主婦会（宮浦、三作、本所）自労婦人部、市教組婦人部の四団体主催で十一月五日、六日、九日の三日間、五回にわたつて、延約四百人の参加の下に「母親大会報告会」を行つた。

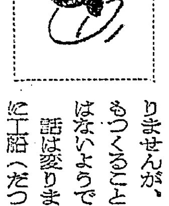
この報告会は約二ケ月の準備期間を経て、地域分会、主婦分会員の努力の結果として生れたものである。

明治校区では、地域的な問題解決に全労働者が統一して当ろうと、三鉱と自労で協議会を作つて毎月討議を重ねているが、主婦会結成記念と校区婦人の起上りを期待して、数ケ月前より考え方だけは話されていたが、九月六日宮浦支部の明治校区主婦会が坑内見学の帰りに市民館で行われた「世界母親大会報告会」に出席したのがきつかけとなり、分会長の日迫さんの発議で「報告会を地域でやろう」と協議会で具体的に立案したものである。

「母親大会報告会」の準備を中心に、今までばらばらであつた三鉱の地域分会の統一が進められ、主婦会結成が急がれ、二ケ月間に八回の会議がもたれ、万全の方策をたてて準備が進められて行つた。

この間、報告会を全校区民のものにしようと、労働組合＝ゴロツキの集りといつてケギライしていた校区婦人会長を動かし、各種の婦人団体を総合した各分会員の努力は大いに感激させられる。また自労ではアブレを利用し、ビラ書きビラ張りを行い、会当日はハタカゼ号が情宣に大活躍をした。なおこの情宣には町内の公民館主事まで応援し、事実上、明治校区全体の行事として進められ、その中心に労働者の力があつたことは今後の発展が注目されるものである。

杉本輿司郎さんへ（2）



こゝらで又、T君の問題に返りますが「文学の偏向」は貴下なりに当を得た回答として道理だと思いますが、唯、今度は貴方の文に失礼ですが少し私なりの意見を差上ることをお許し下さい。と申しますのは、「戦争が始まれば爆弾一つで終末する世界の問題である自分達の不安と焦燥は、単に一連の平和運動だけでは出来ない」と強く前半に打出して「美しい人間と社会の可能性を探ることが唯一の希い」と結ばれた一節の後半が、単に「探ることが唯一の希い」では、如何にも可弱く、サークル文学の必要性強調として、始めから否定している相手、つまりT君に対しては、いさゝかの甘さを与えてはいないかということです。

また、「本当の文学は私達の日常生活の身近かな問題をとらえその場所や時間の中で」とあるのは「本当の文学は」の上に「私たちの」と書かれるはずではなかつたのでしようか。文学と大きくいつておられますがこゝでは貴下の重点に書いておられるような小説を対象に申します

T君の否定説に対して貴下と共に「文学の偏向」を是認する私は、貴方のその文学観にも異論はありませんが、仮りにそうでない場合「私たちの」がなかつたあの通りであるとすれば、私はT君とは別の意味で同意できません。何故ならば、貴下の説通りだとすると、それは報導の域を出ない私小説としての誹をまぬがれぬ、単なる見聞記に終り、そんなことは新聞記者にでも任して置けばよいのです。私小説とは大げさに過ぎましたが、世にいう身辺小説としても私自身それを非ぼうする気はなく、又貴下の過去の作品に当てようとしているのでもなく、一つの文中「本当の文学は」と書き始められたことに少しの不満を思い、グループの、貴下の理想えの段階としてその信条が常識であり妥当だとはしても、重ねて繰迷す「公」の立場から見た場合、そうした姑息的な方法が非であり益ないことゝは、すでに予約されていると断言できるのです。私なりの私見を述べますと、イズムを離れた本当の文学はあくまで想像創作であり（周辺の事実はヒントなりに表面化しない）テーマに徹したものだと考えます。依古地に馬鹿気に字句にかゝわるものではありませんが、創作の二字にしてもつくることで、単なる描写ではないようです。

話は変りますが、多喜二のかに工船（だつたと思いますが）が、かつての構成の権化、今の日本象徴の室、一皇女の共感を呼んだ、とか、そんな報告がありましたが、それ以来、皇女が彼のイズム文学の愛好者になられたという噂は聞およんでおりません。残念なことです。身分や環境が異り、また本来小説に興味や趣味がなかつたのだといえば、それで話はつきますが、後日の報恐がなかつたにしろ、それは事実に相違なく、一つのイズムえの批判と見てもさしつかえないでしよう。

これは、ほんの一例、といえる程のものでもない例にすぎませんが、サークルの行事には多難逆選の道が有難くもない程大きく開いております。しかし、それは各個の強い意志と勇気と日頃の研さんをもつて、悠々かつ歩、堂々と踏破して、先駆者たちが過去の一劃に築きあげたものを、今度は、新日本文学会を中心に、貴下たちの連鎖が全日本に徹底浸透さして頂きたいのです。

（前々号声欄五段目六行目中「鋭く」は「鈍く」の誤りにつき訂正します）

森永中毒事件拡大

ヒ素は菓子やバターにも

参院社会労働委員　阿具根　登

昭和三十年の八月、可愛い子供たち六十二名（実数はもつと上廻る死亡をさせ、患者一万名）を出した森永ミルク中毒事件は、子を持つ親をガク然とさせ、社会問題として大きく世の注視の的となつたが、その後慰謝料等の問題はどうなつたか？　原因は新聞報道の通りであつたのか？

去る十一日参院社会労働委員会では意外な事実が究明され、再び一大センセーションを巻起さんとする雲行である。しかしまだ委員会は終了したわけではないので断定することは出来ないが、今までの新聞発表等との大きな相違点を一、二報告致します。

先ず新聞では森永の徳島工場で使つた安定剤の中に少量のヒ素が含まれていたのが原因であり、その安定剤は法律でも許された第二燐酸ソーダで、森永の使つたのが薬用でなく工業用の第二燐酸ソーダであつたと厚生省発表を報告した。ところがそれは大嘘で、事実は日本軽金属清水工場より買つた「工場の廃物」第三燐酸ソーダとヒ酸ソーダの混合物であり毒物であつたのです。しかも社会の目を恐れてか、これを故意に第二燐酸ソーダとして森永も厚生省も発表している事に大きな疑問をもたねばならない。

第二点はその毒物を使つた製品が粉乳のみでなく、煉乳やバター或いはお菓子にまで使われており既に市販されているとしたら、問題は益々大きく、驚きと怒りはこれを押えることが出来ないであろう。徳島の工場長は「半分位を粉乳に（これであれだけの赤ちやんが死んだ）後の半分位はバターやお菓子に使用した」と言つているしかし厚生省は、始め否定し続けていたが十四日の委員会で「三割位バター等にも使用したが、それには第二燐酸ソーダは使わなかつた」と言明した。何れが正しいかは今後なお究明していくが、何れにせよ既にそのお菓子やバター等は国民の腹の中に入り、或いは入りつゝあるのであります。

臭い物に蓋の政府、資本家

かゝる如く、真の原因も究明されぬまゝ厚生省は、森永の要請に従つて第三者的な五人委員会なるものを作り、被災者の保障を解決せんとしているが、その五人委員会なるものは、被災者側の意見など何も聞かずに出来たしろものでこれまたおかしな存在である。被災者側は「これは中正なものでなく、一方的な森永のいう通りに出来たもので、しかも森永に味方する人達だ」と反対陳情をつゞけている有様である。

こゝに私達はいつものことながら保守の政府は金持の味方になり真実を国民に教えず、与論の鋭鋒をさけて「持てる者」に有利な解決を下さんとする腹黒さ、資本家と政府のつながりを見るのであるそしてそれと共に政府は責任を逃れんとしているものとしか考えられない。

日本軽金属清水工場が故意に第二燐酸ソーダとヒ酸ソーダの混合した毒物を第二燐酸ソーダとして売つたとするなら何故に森永の真実を発表しないのか、真相を知つている政府は、何故殊更にこれを森永の言う如く第二燐酸ソーダとしているか？　森永も自分だけの責任にされているのが残念だからこれは第二燐酸ソーダとして買つたが、実はこれこれだという事をバクロして政府にも日本軽金属にもその責任があるぞと言いたいらしい。しかしそこは商売人、ちやんとそろばんをはじいている。

そこでかゝる事は、世間にわからぬようこつそりと片付け、早く新聞等に「円満解決」を発表して以前のようにボロ儲けの商売繁昌を夢み、そして政府も痛い所をつかれずにすむように被害者の意見も聞かず、五人委員会を作り解決を急いでいるのだ。……と言われても仕方があるまい。

何時も馬鹿を見るのは「持たざる者」であるが、特に今度の場合は何も知らずに殺されていつた天使の如き赤ちやん達の問題であるだけに、よけいに可愛想だし、人道的に見てもその憤りは大きいわけである。

阿具根参議の追求に答辯する正木局長（立てる人）

ゴム引手袋

三川　小代明夫

現場ルポ

坑内のある部内での話しである。

払いの肩かたずけをしたり、鉄柱の曲つたのを延ばしたりこわれたものの修理や運び出したりするのに専門の人が十人程いる。

この仕事をしている田村さんが仲間と坑外に鉄柱運搬中石段のこわれたくぼみに足を踏み込んで転んだ、なにしろ相当重いものだから身軽に逃げられもせずまた放り出してしまうと仲間達に怪我をさせると思うようにいかずとうとう鉄柱とコンクリの間に指をはさまれてしまつた。

「アツチ…」指が千切れたかと思い痛みが体中を走つたかなりな怪我で四針縫つた程だつた。

いくら注意しているつもりでも間々こんなことがあるものだ、不運とも不可抗力ともいつたものだろう。

「ボロ手袋さえはめとけばこんなことにはならないんだ」田村さんの怪我に対する係長の言葉がこれだつた。

仲間達もきいていた。田村さんの胸にもぐつと割り切れない不愉快なものがつかえた。先山の鈴木さんの顔色も少し変つた。

職場委員の藤原さんに係長がこういつたと報告された。さあ藤原さんがかんかんに怒つてしまつた。

係長はなぜあんな不人情とか思えない言葉を吐いたのか？これには一寸こみいつた訳がある

ボロ手袋というのは御承知のようにボロ布をたくさん縫合せて指先が二段に別れている厚い手袋のことである。之を会社からこの人達に支給してある。ところがこの人達はいろんな仕事をするのでかさばつたボロ手袋だけでは仕事がしにくい場合がある。むしろそんな場合が多い位いだそれで職場委員を通じてゴム引手袋も合せてを支給して貰いたいと職場要求を出していた先頃にはゴム引手袋を支給してあるが、この人達にまで支給するとなると、他の職場から係達にもと要求が出ているので、そつちにもやらにやならん、まあ会社の腹を推測すればこんなことだろうと思うのだが言を左右にしてなかなか「ウン」といわない。

あるとき係長が先山の鈴木さんを呼んで「ゴム引手袋は必要ないだろう、ボロ手袋で充分間にあうちやないか」と口説いた、鈴木さんは「私一人で良いとはいえません」と断つてきた。

丁度田村さんは怪我した時他から借りたゴム引手袋をはめていたその方が仕事が仕易かつたからである。合憎とそのゴム引手袋が破れていた。

〃ゴム引手袋をはめているから怪我するんだ、怪我するようなゴム引手袋は支給する訳にはゆかん〃とこれが係長氏のいいたい所のようだ。

田村さんがゴム引手袋で仕事中に怪我した、これは要求を拒絶する絶好の口実に見えた訳である。

支給したくないから、支給しない為には「気の毒だつた」と慰めるより、ゴム引手袋では役に立たないことを主張しなければならない、人間としての情より、会社の係長としてどうしたら彼等の要求を沈黙させるか、これが大切だ、「ウン」と大切だぞ!!彼等の要求は無茶だ、役に立たんのを要求する。必要だとしてもだ俺の責任にならんように出来んもんか……だが現場の人はそうは見ない。

破れていない新らしいゴム引手袋を支給してもらいたいのだ、もちろんボロ手袋もいる仕事しだいでどちらもいる、それに仕事に充分間にあう人間をそろえてもらうと事故もなくなる、係長の一言はかえつて現場の人たちの気持をわきたゝせた。

再び現場委員の藤原さんは現場の人と一緒にゴム引手袋支給してもらいたいと催促の交渉を始めた、多分獲得するまでこの要求は続けられるだろう、そしてきつと獲得すると思う。

地域分會で消防隊發足

原万田地域分会では分会規則の改正を行い新に消防班を設けることになつていたが、十一月十三日午後六時より原万田保育園で岩田分会長を議長として班長会議を開催し、消防班長に工藤光幸氏、副班長に加藤初雄氏、外班員三十二名を決定した。現在までの社宅消防隊は会社の任命による一方的なものであつたが、今後の社宅消防隊員は地域分会の消防班員をあてるということが改正の主眼点で、その班員も各班の班会議でそれぞれ推せんをうけたものが班長会議で万場一致決定されたものである。分会では近く消防班員三十四名を会社の社宅消防隊員として任命させるよう強力に会社に申入れることになつている。

地域分会で消防班を設けたのは三池では最初のことであり、新しいこころみとして消防班の発展は各方面から非常な期待がよせられている。

怒いのまゝ

一、三白景気の夢を見た
のどから口から手の出るような
札束かぞえるボーナス日

二、ハモニカ長屋の悪夢にさめた
寒さにふるえて泣いていた
赤字赤字で頭痛こう

三、なんとかしてよと肩叩かれて
どうせ俺らは鉱山ぐらし
苦労するのも世の運命

四、諦らめしやんせというものゝ
せめて子供にゃ晴着でも
買つてやりたい親心

（宮浦　加藤義紀）

菊花品評會

四山では去る十一月十三日菊花品評会を開いた。菊花愛好者は組合員のなかで毎年増加しており、四山は花に一番わるい発電所のばい煙が毎日眼もあけられないように降るなかで、とくに菊をつくるということは一方ならぬ苦労を要しまた経費もいることである。この悪条件のなかで愛好者は一日の労苦を忘れ、たん念に菊つくりにいそしんで生活を楽しみうるおいをもたらしている。

日頃の腕を競おうと当日の出品数は八十点あまりあり、その中より厳選の結果左の人々が入賞した。

◇入賞

一輪			
厚物	一等	竹下　光人	内機
細物	一等	牧野　照行	人事
三輪			
厚物	一等	中尾寿一郎	機元
細物	一等	牧野　照行	
数輪			
	一等	牧野　照行	